

『女性船員』という言葉無くしたい！

性別に関係なく 対等に活躍できる フェリーを目指して！



荷役作業中の三等航海士。夏になると40度を超える車輪甲板でも、テキパキと仕事をこなす彼女。肝が据わっており、想定外でも動じない。後輩に対しては、女性だからこそできる優しく丁寧な指導で後進を育成している。

会社の姿勢

状況は性別を選ばない！一人の船乗りとして育成

弊社は、前身となる（株）マリンエクスプレス時代より運航部における女性の職員（士官）を採用してきた経緯があり、職場の土壌としては受け入れ体制が整っていると考えている。

弊社の方針としては男女関係なく、あくまで“一人の船員”として捉えており、現在に至るまで“女性だからといって特別扱いは行わない”運航形態を目指し取り組んでいる。自然を相手にした運航業務は、刻一刻と変化する状況に対し、臨機応変に対応できる人材の育成が求められており、彼女達は時として厳しい側面も経験するが、一方で仲間達と楽しい時間も共有し、男女関係なく業務に従事している。

社内環境

船乗りとしてのプライドを維持・共有するために！

現在、運航部に於いては甲板部1名（航海士）、機関部1名（機関士）が複数名の事務部女性乗組員とともに船内で生活している。

船内での生活に配慮した点は、女性専用のエリアを設定し、浴室、トイレ、乾燥機等を設置した。通常の生活においては、職種・職責に応じた部屋に入ってもらい、性別に関係なく各種業務へ従事している。

今後の課題は、出産・育児休暇後の復帰乗船に於いて、会社としてどのようなバックアップ体制が図れるかといった点であり、そこからが正念場であると考えている。

なお、ハラスメント対策に関しては、海上は危険を伴う等、特殊な環境下にあり、特にパワハラ・逆パワハラについては、対策の内容次第で指導する側の積極性を損ない、教わる側も引っ込み思案となる可能性を危惧しており、船員に見合った方針を模索中である。現在行っている対策としては、各種ハラスメントが発生する主要因にモラルハザードが関係していると捉えており、モラルハラスメントの防止に向け、モラルの維持・向上に取り組んでいる。



船のポジションを海図に記入している三等航海士。「船はまだまだ男社会といったイメージがありますが、操船や荷役など、技術や知識に男女差はありません。」と力強く語った。



主機を点検中の三等機関士。「機器を取り扱う際は、常に語りかけるような気持ちで作業を行っています。」心なしか機械も彼女に話し掛けているように感じた。

取り組んでいる会社の概要

宮崎カーフェリー株式会社

代表者： 穂永 一臣（代表取締役社長）
所在地： 宮崎県宮崎市港3-14
資本金： 1億円
事業内容： 旅客船兼自動車渡船運航業
従業員数： 158名

（平成30年6月時点）